

吸塩植物アイスプラントの佐賀県特産野菜化に関する研究

1 中核機関・研究総括者

佐賀大学農学部 野瀬 昭博

2 研究期間

2004～2005 年度（2 年間）

3 研究目的

佐賀県の干拓農地では残留塩分や塩水化した地下水に由来する塩分が土壤中に集積し、作物への塩害が問題となっている。

吸塩植物アイスプラントは我が国新たな食材として大きな需要が期待でき、本植物の塩化ナトリウム吸収機能は塩類土壤修復技術として利用できる可能性も持っている。佐賀県農業の活性化、干拓地営農のため、アイスプラントの特産野菜化、干拓地除塩技術の確立が望まれている。

そこで本研究では、アイスプラントを佐賀県の特産野菜として栽培・販売するための技術開発を行う。さらに本植物による干拓地除塩技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 特産野菜化に関する研究（佐賀大学、（独）九州沖縄農業研究センター、九州電力（株）総合研究所生物資源研究センター、九州惣菜協会）

種子供給を含めた周年栽培技術を確立するとともに、調理法の開発、食品としての市場調査を実施する。

② ファイトトレメディエーション技術開発に関する研究（佐賀大学、佐賀県農業試験研究センター）

アイスプラントによる干拓地除塩技術を開発する。

5 目標とする成果

アイスプラントの周年栽培技術の確立、販売に向けた取り組みにより、本植物の商品化を実現する。これにより、佐賀県の地域活性化と経済的効果、日本の食産業の活性化が期待される。

また、アイスプラントによる干拓地除塩技術を開発し、塩類土壤修復技術を確立する。これにより、佐賀県の干拓地営農技術の確立、地球全体で深刻化する塩類土壤の修復技術開発への展開が期待される。